

令和 7 年度 京都市立京都堀川音楽高等学校 学校経営要綱

【学校教育目標】 「人とつながる音楽家」の育成

1. 実技力のさらなる進化を希求する生徒の育成

- ① すべての生徒が、将来音楽専門家として活躍するために必要な基礎力を培う。
- ② 自らの専門性を高め、国内外のさまざまな音楽シーンをリードする音楽家の育成を目指す。
- ③ 音楽を通してのキャリア教育を意識し、それぞれの授業における目標を明確にする。
- ④ 生徒自身が自らの目標を高く掲げ、その実現に向けて自発的に音楽に取り組み、自己調整していく力を培う

2. これからの時代の中で、自己実現に向かうことのできる学力を持つ生徒の育成

- ⑤ ことばの力をはじめ、基礎となる教養を醸成する。
～生徒が自らを社会の中で生かし、日本をはじめ広く世界で社会に貢献するために～
- ⑥ 生徒自らが学びを獲得することができる工夫をする。
～主体的で対話的な深い学びを実現する授業等を通して～
- ⑦ 授業の目的目標を明確にし、校内外の指標や評価を積極的に求める。
- ⑧ 常に授業改善に努め、進路実現にも対応できるよう、授業の質を高める。

3. 音楽家が人とつながっていくために不可欠な人間力の育成

- ⑨ 教育活動のすべての場面を、生徒自らが豊かな感性情操を培う機会として活用する。
- ⑩ 音楽の力に生徒が気づき、その発信者となれるよう働きかける。(音楽が自他や社会に影響を与え、豊かな人間、よりよい社会の実現に寄与できるなど)
- ⑪ 生徒が世界の中の京都の文化的な風土特性を十分に理解し、伝統の上に立ちながら、自分の音楽を創造していく気概を持てるような機会を作る。

【学校経営目標】

(1) 決定のプロセスへの参加

- ・ 教職員が互いに敬い合い、適切な「相互依存」の形を追究しながら、教育活動を推進する。
- ・ 教職員全員が学校経営への参画を意識する。

(2) CAP-Do

- ・ 全ての教育活動において目標イメージと必要な情報の共有を行い、協同連携を促進し、効率的効果的に業務を遂行する。
- ・ 常に「何のために行うのか」「どのようになればいいのか」を意識し、達成についての評価を行い改善につなげる。

(3) 研究と修養

- ・ 唯一無二の堀音をより良い学校にするためにも、一人一人が日々自身の専門性の研鑽と幅広い教養の獲得に努める。

(4) タスク整理と効率化

- ・ ミスの起きにくいタスクの構築と、ウェルビーイングを意識した業務の効率化に努める。

(5) 生徒募集

- ・ 生徒の今の姿と将来の姿の見える説明会をブラッシュアップする。